平成２５年度　海外派遣教員を励ます会

平成２５年２月１６日（土）に上記の会が，岡山アークホテル１Ｆレストラン「ラ・ペーシュ」で開かれました。岡山駅の近くで，便利が良く，貸し切りでも良心的な料金のため，本会の行事としておなじみの会場でした。参加者は３１人で，今回派遣される４人の内３人が参加されました。それでは，以下に会の様子をお知らせいたします。

神田進校長は，シニア派遣としてシラチャ日本人学校に校長として派遣されます。先生は今回が３回目の派遣になります。前回の派遣は，イーストテネシー補習校の校長としてのものでした。シニア派遣の制度ができて，退職した教師が現地でまたすごくがんばってきたため，毎年採用が増えているそうです。今回は５８人が派遣され，応募者は１０倍位もいたそうです。今回，タイのシラチャ日本人学校の校長として派遣が決まり，責任の重大さを痛感するとともに，岡山県国際理解教育研究会のバックアップに感謝していますとのことでした。現地では，まだ出来て４年目の新設校で，年々児童生徒数が増え，校舎建設や教員確保などの山積する課題にがんばって取り組みたいとお話されました。

また，奥様からは，アメリカの３年間は，あっという間でした。最後の卒業式は，後ろの方で参加させてもらって，みんなが神田先生大好きと言ってくれた時は，とても感動しました。今度は，日本人学校ですが，健康に気を付けて二人でがんばりたいです。婦人会もあるようなので，若い人に混じって楽しみたいとお話がありました。

田甫健一先生は，和気町立本荘小学校からインドのニューデリー日本人学校に派遣されます。最初は，派遣先のインドという国を聞いたとき，カレーや象やタージマハールくらいしか浮かばなかったそうです。早速近くの本屋で，インドの本を探すと，「るるぶ」と「地球の歩き方」の２冊しかなかったそうです。その後，お母さんが同じ本屋でインドの本を探したけれど，田甫先生が２冊買ってしまったため，何もなくてどうしようと困ったと笑ってエピソードを話されました。今は，赴任の手引きのＤＶＤが届いて，楽しみでいっぱいだし，３年後はお土産をたくさん持って帰って，子どもたちに返していきたいと話されました。

次に奥様からは，５０℃にもなる厳しい気候だし，写真を見たら野良牛がいたりして考えたら考えるほど不安になるから考えないようにしているとのことでした。また，牛肉や豚肉は，宗教の関係で手に入りにくいし，魚も海からは遠いので少なく，焼き肉が大好きな奥様は困ってしまったけれど，それを前向きにとらえ，旦那さんのダイエットに心がけ，スリムになった姿を見せたいとのことでした。現地では，日本人会の行事に積極的に参加し，自分の時間も水泳などでリフレッシュしたいとのことでした。

早川政宏先生は，備前市立三石中学校からニュージャージー日本人学校に派遣されます。津山の藤原先生が，先輩として，すでに現地のことをいろいろアドバイスしてくれていて，大変感謝しているということでした。４日後には船便で荷物を送らないといけないため，今は荷造りに大忙しとのことでした。岡山県の先生が，また来てくれて良かったと言われるようにがんばってきたいと決意を述べられました。

また，奥様からは，家族の絆を大切にし，食事など自分でできることは，しっかりサポートしたいと話がありました。

今回は，派遣を希望する先生が，２組参加しました。まず，鳥居恭治会長が校長，山本義人副会長が教頭の岡山市立江西小学校から参加した阿部麻美先生です。

次に，武泰稔参与が，矢掛町教育長として，お膝元の矢掛小学校から参加した黒江浩史先生と奥様です。今回インドに派遣される田浦健一先生は，３年間このような壮行会や研究会に参加して，今回めでたく派遣希望が叶ったわけですから，この２組の先生方にもぜひがんばっていただきたいと思います。

鳥居恭治会長

今日は，３組の皆様，この度の派遣おめでとうございます。特に，神田元会長は，３度目の派遣ということで，名札に書ききれないようになりました。岡山県代表として，元気に３年間活躍されることをお祈りしています。本会も，皆様から教材や情報などについての依頼がありましたら，全力でバックアップしていきたいと思います。

武泰稔参与

私は，モスクワ日本人学校に派遣されていました。その当時は，まだ米ソ対立の時代で，アメリカ側の日本としては，敵国に赴任するわけですから，今とは違って大変な緊張感でした。その時に，気を付けたことが３つありました。第１は，命だけは落とさないということでした。第２は，お金を取られないということでした。最後は，物を取られないということでした。しかし，この３つを気を付ければ，あとはいいことばかりでした。次に，帰国してからのことですが，１９８１年８月に，本会の前身であります帰国教師の会を結成しました。その当時は，１６人が帰国していました。皆様も，帰国されましたら，その海外での成果を岡山県の国際理解教育のために寄与していただきたいと思います。

山本正参与

私は，現在は環太平洋大学に勤務し，教職をめざす学生を教えています。今回派遣が決まった先生の家族の方は，どうしてこの国へと戸惑っていることでしょう。しかし，それは運命なのです。積極的に受け入れて，楽しんできてください。それでは，皆様のご活躍を祈念しまして乾杯しましょう。

神田進校長

シニア派遣について，プレゼンテーションで現状を説明しました。まず，今回の派遣は３９９人でした。その内シニア派遣は，校長２８人，教頭４人，教諭２６人の合計５８人でした。採用される人間像として，全海研で活躍している人，意欲がある人，現地での具体的な目標をもっている人などを挙げました。シラチャ日本人学校は，政府派遣教員が１２人で，現地採用教員が１１人，その内８人が新採用と，研修が課題であることを説明されました。

栗坂祐子副会長

閉会のあいさつをします。私は，派遣期間が４年でしたが，その不自由な環境だからこそ工夫してがんばってきたことが，今も生きていると感じます。現地では，健康に気を付け，家族の絆を深めてきてください。また，現地の人，子どもたちやその保護者，教員仲間などの出会いを大切にしてください。きっと自分の世界が大きく広がることでしょう。そして，その国が大好きになると思います。帰国歓迎会では，楽しい話を聞かせてくれることを期待しています。